

学校保健

The School Health No.159

(財)日本学校保健会

- 福岡県の心検3年の歩み
- Q & A 競技事前の診断書
- 横浜市の心検体制
- 保健研究大会のあり方

~~~~~  
会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。

## 学校における心臓検診の充実

文部省体育局学校保健課長 下宮 進

児童生徒の心臓疾患は、生涯にわたる健康に大きな影響を及ぼすだけでなく、突然死の要因となるものがあることから、その早期発見と早期治療など適切な事後措置が望まれている。

このため、文部省では、昭和48年に学校保健法施行規則の改正を行い、新たに「心臓の疾病及び異常の有無」を健康診断の項目として掲げ、学校における保健管理の充実に努めてきた。

また、昭和52年から日本学校保健会の学校保健センター的事業の一環として、心臓検診に関する各種の事業を推進したこともあって、昭和59年度においては、全国の学校における心電図検査の実施率は70%を超えることとなった。

昭和60年度においては、新たに心電図検査の実施率の低いへき地学校を対象として、その費用について国庫補助を行うこととしている。この事業の推進により心電図検査の全国的普及に努めていきたいと考えている。



子どものための健康相談(東京・高松小)

撮影 石川委員

# 心臓検診推進事業8ヶ年の歩み

(助)福岡県学校保健会理事長(県保健課長) 足 達 九

## 1. はじめに

福岡県教育委員会は、昭和53年度文部省の助成を受けて、定期健康診断(心臓・腎臓)体制整備推進事業を実施した。実施の答申により、心臓検診については、当面小学校1年生全員に省略心電図検査を義務付けた。さらに、今後の問題として、中学校1年生・高校1年生にも同様の心臓検診を実施するよう努める。その際、県医師会に心電図のコンピューター自動解析装置を設置し、県下一律に心臓検診が実施されるよう検討することになった。

文部省の本事業は、昭和53年度より日本学校保健会の学校保健センター的事業として受継がれることになり、福岡県においても福岡県学校保健会が本事業を受託して、昭和54年まで答申に基づき心臓検診の普及状況を調査し、その普及充実のための指導や研修を実施してきた。

一方、福岡県医師会内に財団法人福岡県メディカルセンターが設立された。主たる事業として、救急医療情報センターと心臓検診事業を実施することになり、省略心電図自動解析用コンピューター中央処理装置を設置することが検討された。その経費の助成に福岡県教育委員会は、設備として、約7,500万円及び県立学校1年生の心臓検診手数料約2,500万円、計約1億円を昭和55年度予算に計上し、実施した。

昭和55年度は、県立学校全1年生35,193名に実施された。昭和56年には、私立高校60校の全1年生21,284名を加えて、55,110名を実施した。その後、郡市医師会検診班が端末器で収録した省略心電図の自動解析を加えると、昭和59年度は、県立学校及び私立高校1年生62,222名の心電図収録及び解析と、郡市医師会の心電図収録分30,537名、計92,759名に実施した。

## 2. 心臓検診調査研究委託事業

昭和53・54年度に定期健康診断(心臓・腎臓)体制整備推進事業を実施し、その成果をあげたことに引き続き、昭和55年度には心臓検診調査研究事業の委託を受けて実施することになった。

本事業の目標は、コンピューターによる心臓検診について調査研究し、もって本県の心臓検診体制を充実し、児童・生徒の健康の保持増進に資することである。事業の内容は次の通りであり、それぞれに成果をあげることができた。

- (1) 児童・生徒の一次心検における心音・心電図自動解析の研究。
- (2) 高校1年生の省略4誘導心電図の自動解析の研究。
- (3) 高校1年生の4誘導及び12誘導同時収録による比較研究。

この研究は、福岡県メディカルセンターの協力を得て、昭和56年度も継続した。日本学校保健会は、昭和57年度から昭和59年度まで、心臓検診推進事業を実施することになったので、本県もこの事業の委託を受けることとなった。

## 3. 心臓検診推進事業

日本学校保健会の新規事業の目的は、心臓疾患が、児童・生徒の生涯にわたる健康に大きな影響を及ぼすだけでなく、突然死の最も多い原因であることから、早期発見、早期治療及び事後措置を適切に行う必要からである。

福岡県においては前述のごとく、ほとんどの市町村において、全員心電図検査による心臓検診を実施したが、心音図検査は実施されていないので、次の事業目標をたてて実施した。

### (1) 事業の目標

自動解析による心電・心音計による心臓検診を行い、心疾患を有する児童・生徒の発見率及び技術的問題等について検討を行い、適切かつ効果的な心臓検診の実施に資する。

### (2) 本事業を進めるための委員会及び構成

#### a. 心臓診査推進事業委員会

本事業を企画し、推進するための委員会で、次の10名により構成されている。

県医師会(3) 郡市医師会長(4)

県教委(1) 専門医(2)

#### b. 心臓検診専門委員会

心音・心電図読影の結果を総合的に検討する委員会で、次の5名により構成されている。

専門の大学教授(2) 専門医(3)

#### c. 心電・心音図読影委員会

自動解析により打出された結果とチャートを全例について比較読影すると共に一部について自ら聴診する等して診断する委員会で、専門医10名により構成されている。

### (3) 本事業の概要

a. 検診地区及び対象学年

昭和57年度は、初年度でもあり委託指定の遅れなどから、昭和55年度から心臓検診調査研究事業に、心音計を取入れて実施していた宗像市郡と本年度から新たに実施を計画していた太宰府市及び那珂川町を指定し、小・中学校1年生6,460人を対象に実施した。

昭和58年度は、前年実施地区の外に心音図検査を希望していた地区を新たに加えて、小学校1年生は、7,722人、中学生1年生は、4,349人、総計12,071人を対象に実施した。

昭和59年度は、昭和58年度と同一地区、同学年

年に対して、ほぼ同数の12,301人を対象に実施した。

b. 検診方法

心電・心音収録には、フクダ電子社製SDC-41を使用し、RM-41によってL-カセットに記録し、これを福岡県メディカルセンターに設置されているECP-100を用いて解析した。

解析結果は、心電・心音図読影委員会が全例再チェックして、各医師会に報告され、各医師会の心検班は、これに胸部写真調査票を基礎に、心臓検診専門委員会が指示した方法により、二次検診者を抽出し、二次検診者は、総て福岡市立こども病院小児循環器科の専門医が診断した。

c. 検診結果

心臓検診推進事業実施状況表

| 年 度   | 学 校 学年別 | 学 校 数 | 対 象 人 員 | 検 診 人 員 | E. C. P による所見者 |      | 要 精 検 者 |     | 異 常 者 |     | 市 町 村 数 |
|-------|---------|-------|---------|---------|----------------|------|---------|-----|-------|-----|---------|
|       |         |       |         |         | 人 員            | %    | 人 員     | %   | 人 員   | %   |         |
| 57    | 小 1     | 30    | 3,318   | 3,262   | 368            | 11.3 | 90      | 2.8 | 40    | 1.2 | 7       |
|       | 中 2     | 13    | 3,142   | 3,126   | 432            | 13.8 | 124     | 4.0 | 41    | 1.3 |         |
|       | 計       | 43    | 6,460   | 6,388   | 800            | 12.5 | 214     | 3.4 | 81    | 1.3 |         |
| 58    | 小 1     | 66    | 7,722   | 7,722   | 911            | 11.8 | 246     | 3.2 | 85    | 1.1 | 21      |
|       | 中 2     | 19    | 4,349   | 4,349   | 700            | 16.1 | 186     | 4.3 | 60    | 1.4 |         |
|       | 計       | 85    | 12,071  | 12,071  | 1,611          | 13.3 | 432     | 3.6 | 145   | 1.2 |         |
| 59    | 小 1     | 67    | 7,543   | 7,517   | 794            | 10.6 | 205     | 2.7 | 49    | 0.6 | 21      |
|       | 中 2     | 19    | 4,804   | 4,784   | 719            | 15.0 | 192     | 4.0 | 46    | 1.0 |         |
|       | 計       | 86    | 12,347  | 12,301  | 1,513          | 12.3 | 397     | 3.2 | 95    | 0.8 |         |
| 計 (延) | 小 1     | 163   | 18,583  | 18,501  | 2,073          | 11.2 | 541     | 2.9 | 174   | 0.9 | 49      |
|       | 中 2     | 51    | 12,295  | 12,259  | 1,851          | 15.1 | 502     | 4.1 | 147   | 1.2 |         |
|       | 計       | 214   | 30,878  | 30,760  | 3,924          | 12.8 | 1,043   | 3.4 | 321   | 1.0 |         |

(4) 本事業のまとめ

a. 心音自動解析の精度

収録時に十分な注意を払えば、心音自動解析の精度は満足できるレベルに達している。ただし、収録時間の関係で、雑音の判定打ち出しに難点がある場合がある。

b. 二次検診への影響

心音自動解析を一次心検に導入することは、二次以降の検診をより円滑にする。

c. 収録所要時間

心電図のみの場合に比し約50%増の時間を要するが、授業の1単位時間内に1クラスの収録が、ほぼ可能であることから許容範囲と考えられる。

d. 校医の聴診との比較

定期検診時の短時間内多数例の連続聴診は、強い耳性疲労と検診場所の騒音等から、心音所見の正確性と均一性の確保の点から心音図導入が望ましい。

以上を総合すれば、心音自動解析の一次心検導入は有用であるとの結果を得た。

(5) 今後の課題

a. 一次心検への心音図導入の必要性の認識と普及

設置者の経費負担や収録時間及び技術者の確保等の問題があるが、前述の有用性及び軽症心室中隔欠損症の発見率が優れている等の点から、心音図導入の普及に努めるべきである。

b. 管理の徹底

児童、学校、家庭(本人)の緊密な連携が必須である。統一した帳票による相互確認ができるように対処すべきである。

c. 地区医師会心検班の対応

心電・心音自動解析の導入で、心検班の労力は大幅に軽減されるが、「あなたまかせの心検」とならぬよう、二次以降の検診及び事後管理の徹底に努めるべきである。

# Q & A — 学校保健活性化のための —

**Q** 校内マラソン、水泳、対外試合などに出場の場合、健康診断書を事前に必要とするとして、依頼された場合、

- ① 診断書は、どのようにしたらよいか
- ② 診断書に異常なしとして、その後、不幸にして突然死亡などが惹起された場合、診断書を記載した医師、学校医の責任はどうか
- ③ 診断書の様式が、いろいろとあるので、統一的な診断書を定めることはできないか

**A** ..... 学校保健に関する検討委員会委員長 重 田 精 一

- ① 「文体体第81号」「児童・生徒ら運動競技について」の文部事務次官からの都道府県教育委員会通知（昭和54年4月5日）によると  
「1.学校教育活動としての対外運動競技について」の(1)ーウ、「対外運動競技に参加する者については、本人の意志、健康及び学業などを十分配慮するとともに、その保護者の理解をも十分得るようにすること」と述べられており、通知の内容として、「参加者についてあらかじめ健康診断を受けさせることについては、大会当日の1ヵ月以上も前に行った健康診断や、毎学年始めの定期健康診断に基づく書類がだされているのが実態であり、形式に流れていたきらいがあった。また、現在行われているような一般的、静的な健康診断だけでは、大会当日の選手のスポーツ活動の安全性を医学的に保証できるものではないので、スポーツ医学の観点から、そういう形式的な健康診断書を出させる意味が薄れてきているといわれている。したがって、形式的に健康診断を受けさせることを義務づけることは必ずしも必要ではないと考えた。一般的な学校において、運動部活動の実施に際して、常に児童・生徒の健康状態をよく把握するとともに、対外運動競技の行われる直前においても、学校および家庭において、児童・生徒の健康状態に十分留意して大会への参加をきめるよう指導することとした」と解説されている。
- ② 健康診断により、その日の健康状態のチェック、疾病などのチェックができて、競技当日の体調、さらに、競技参加中の状況まで予見することは不可能であり、また、一般的には打診、聴診のみによる健康診断であればその範囲のチェックしかできない。さらに、心電図、心音図、胸部X線撮影などが要求されていたとしても、その診断当日の状況を示すものにしかすぎず、あくまで、競技参加者本人の当日の状況、例えば、睡眠不足、神経性の下痢、さらに感冒などによる体温上昇など予測すべくもなく、平生時の健康観察を、家庭、学校においても充分に行い、本人の体調とあわせて参加の可否を決定する以外に方法はない。  
上記の理由により、現在、都道府県においては、健康診断書を要求されない場合が多くなってきている。  
しかし、一部にはなお依頼される場合もあるが、一般には「打聴診上、異常ありません」という程度であり、「競技参加差支えなし」などと記載することは不可能であることは当然である。また、診断書を記載した医師は、記載について責任がありますので、トラブルなどのおこる可能性を全部否定することはできないのが現状である。それ程に診断書の意味は、大きいことを理解してほしい。
- ③ また、統一的な書式については、都道府県医師会によっては、統一的書類作成を用意しているところもあるが、前述の診断書のもつ意味から、診断書以前の健康観察がしつかり、地について実施されることを希望する。

# 横浜市立中学校 1 年生全員 (45,000人) の 心電図自動解析診断を実施して

横浜市医師会学校医師会常任幹事 三 沢 孔 明

## 1. 動 機

- 横浜市が昭和37年より行なってきた今迄の方法では、有所見者の発見率が非常に少なかった。(校医の聴診とレントゲン写真のみによる1次検診方法。例えば、昭和56年度検診では3次検診時有所見者0.036%)。
- 最近特に問題となっている「突然死」や「不整脈」の発見率の増加で、より正確な「心臓病者」発見が、重要な課題となってきた。
- レントゲン照射の問題をふまえ、レントゲン撮影の機会をできるだけ少なくしたい。
- 検診にできるだけ校医の参加を望むため、講師を

招いての講習会を多くし、なじみの深い12誘導心電図検診として不整脈の解析を有利にしたい。

以上の事項より横浜市では、昭和58年度より中学1年生全員(45,000人)心電図自動解析診断法実施するに至った。(心音図検診実施する計画なるも、現在の心音検診装置では、一応問題があるので時期を待っている。)

## 2. 実 施

- 59年度は市内14区中学校141校の1年生45,400人を対象とし、このうち44,790人(98.7%)を検診した。

昭和59年度中学一年生心臓検診結果

| 検 診<br>数<br>(%) | 第一次検診<br>受診者数 | 第二次検診<br>受診者数 | 第二次検診結果        |               |            | 第三次検診<br>受診者数 | 第三次検診結果       |               |          | 二次+三次検診結果      |               |
|-----------------|---------------|---------------|----------------|---------------|------------|---------------|---------------|---------------|----------|----------------|---------------|
|                 |               |               | 異常なし<br>管理不要   | 要三次           | その他<br>3E可 |               | 3E禁<br>以上     | 3E可           | 管理<br>不要 | 異常なし<br>管理不要   | 3E可           |
|                 | 44,790        | 532<br>(1.2%) | 378<br>(0.84%) | 70<br>(0.16%) | 84         | 67<br>(0.15%) | 8<br>(0.018%) | 49<br>(0.11%) | 10       | 388<br>(0.87%) | 133<br>(0.3%) |

- 1次及び2次検診を行なう学校心臓病判定委員は58名で、殆んどが学校医である。
- 58年度の検診結果を参考として、中学1年生対象集団心臓検診用心電図チェックリストを作成し、検診対象を統一した。
- 2次検診の検診人数と負荷心電図検診者を多くして、3次検診の負担を少なくした。
- 今迄のMモード、心エコー図検査に加えて、心断層エコー検査を2次検診に導入した。
- 3次検診は、横浜市大病院等6医療機関で行なわれた。

## 3. 評 価

- 1次検診の心電図所見より2次選出された有所見者は532名(1.2%)で、このうち133名(0.3%)が2次及び3次検診にて管理区分3E可となった。これは従来までの検診方法よりも多い(56年度は0.036%)。

- 今回の検診により3名の新しい心房中隔欠損症者が発見され、このうち1名は手術を受けた。いずれも心電図所見の異常より発見されている。
- 3E禁以上の者は8名いた。(1-D2名、2-C1名、3-D1名、3E禁4名)
- 学校心臓検診事業を医師である学校医が主となっていない、児童・生徒の健康管理を進めていくことは、と角“いわゆる検診事業者”に全てをまかせる風潮の中では、特に必要と考えられる。その意味において、横浜市では、12誘導心電図利用と講習会等により、興味、知識の維持と高揚に努めているが、幸に会員やその他の機関の協力を得て、現在のところスムーズに行っている。今後、この事業を推進していくためには、なお、一層の医師(学校医)と行政と学校当局の協調がぜひ必要であると考えられる。

**北から南から****学校保健研究協議大会のもち方**

山口県学校保健連合会会長 梅原 亨

**はじめに**

このたび、山口県で第31回中国地区学校保健研究協議大会を開催し、反省事項を得たので報告し、ご意見を求めたい。

このような研究協議大会は各地区にて行われており、中国地区大会も31回になる。しかし、回を重ねるというだけで評価があるとは思われない。

教育は本来、積み重ねることにより前進するものであるが、現実において評価を求めることができるであろうか。ただ、慣例により、事務的に実践されている傾向はあるまいか。

真剣に考える時、この健康教育が子供のためになる協議大会としておざなりにされていることはないか、祭であってはならないと思う。子供の生涯健康を対象として、子どもにどう対処しているのか、と疑いたくなる。

**教育の場の問題点**

私は、昭和41年頃より、生涯健康のために、自分の健康は、子供自身が認識し守るべきである。それが教育の本質であると確信して、「自ら守り育てる心とからだ」ということを主張してきた。

教育の場で、今日、教える側の努力、研究の前進は見るべきものがあるに反して、教えられる側（子供たち）の取組み方は熱意がなく等閑にされている。このことは、教える側と教えられる側の相互信頼の存在の欠如だと思う。

現在の社会一般の他力本願、依存の姿は、この教育の結果だと断定しても過言でない。

生涯健康は子供自身のものであり、学校、職場や社会を一貫して自主的認識こそが必要である。義務教育は、法により教育するのだときめつけておるが、子供たちは、義務教育であるから学校へ行くのだとの感覚で、教育に対する実践意欲が存在していない。そのことは義務教育制度の欠陥であるまいか。

**体験学習で健康の認識を**

一面過保護的教育が実施されていることは、情報

化時代の社会に危険なことであるように思う。

教育実践は教育の主体であり、目的であるが、子供を育成するということから遠ざかって、子供不在の空理・空論的なものになっている。

研究協議大会を企図する場合、特別講演、シンポジウム、分科会等に常に子供の参加を画いて実践することが必要だ。

多くの報告例は、美化することに急にして、タテマエ論に流れている。失敗報告、苦心談は殆んど見られない。そして、官僚的、事務的な検討に終始する。

子供に、生命尊重という現実を認識させるためには、まず、死とか苦痛、苦悩を自覚させること、肌をもって知らずことである。人間生活の連帯感の必要性を知ることが、まず、健康ということの認識の第一歩である。

人間生活は、生命が第一であり、その保存が諸問題を自然的に理解でき、生体の健康を認識することになる。

自己の生体を知る順序を子供の能力に応じて示す方法を検討する必要がある。

**むすび**

現在の子供は「考える」「知る」そして「理解する」という行為が劣っている。教える側の発言を無批判に受けて、それを「考える」そして「理解する」ということになり、教える側もそのことを願っており、「すなおな子」と考えている。

このことを押し進めれば、進めるほど「落こぼれ」という現象が多くなる。そして、教師も子どもも不満足な教育の評価を味わっている。

特に教えられる側に熱意の欠如している場合には不満足感が増加することになる。

教育という問題を考える際、人間の生体的原点にかえって、検討する必要がある。このことは、臨教審に期待するところが多い。学校保健を検討する際に求められるのは、底に流れる教育の本質を審議することである。

日本学校保健会だより

昭和60年8月

学校保健の振興に関する陳情について

(勸)日本学校保健会会長 東 俊 郎

文教部会・文教制度調査会殿

1. 陳情の要旨

近年における生活環境の変化は、児童生徒の健康を阻害する新しい要因を引き起こしております。

このような事態に積極的に対処し、心身ともに健康な児童生徒を育成することは学校教育の重要な課題であります。

昭和61年度予算の編成にあたっては、学校保健に関する事業の振興について特段の御尽力と御配慮を賜りたくここに陳情します。

2. 要望する予算額等

(1) 児童生徒の健康増進特別事業の充実

64,900万円 (60年 65,000万円)

(2) 交通安全教育の推進

2,500万円 (60年 800万円)

(3) 学校の管理下の児童生徒等の災害に対する災害共済給付の充実

181,800万円 (60年 184,400万円)

新刊ご案内



◎ご注文は「はがき」で本会事務局まで  
 頒価1部65円 最低50部 それ以上は10部単位で受け付けます。(送料別)

昭和60年度 全国学校保健研究大会・地域ブロック学校保健大会

| 大会名〔期日〕                                 | 場所  | 主 題                                                                                    | 代表出席者・講師           |
|-----------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 第36回 十一大都市学校保健会<br>〔5月26日(日)~27日(月)〕    | 京都市 | 自ら「健康づくり」に取り組む児童・生徒の育成。<br>-学校・家庭・地域が 体となって-                                           | 尾 花 茂              |
| 第35回 九州地区学校保健研究協議大会<br>〔8月5日(月)~6日(火)〕  | 佐賀県 | 生涯にわたって心身共に健康・安全で自己管理のできる児童生徒の育成。                                                      | 山 中 正 一<br>大 国 真 彦 |
| 第31回 中国地区学校保健研究協議大会<br>〔8月6日(火)~8日(木)〕  | 山口県 | すべての子供たちに生涯にわたる健康を。<br>-自ら守り育てる心と体-                                                    | 関 口 龍 雄            |
| 第20回 東北学校保健大会<br>〔8月8日(木)~9日(金)〕        | 福島県 | 健康で活力に満ちた生活をめざして。                                                                      | 山 中 正 一            |
| 第7回 近畿学校保健連絡協議会<br>〔8月22日(木)〕           | 大阪府 | 近畿の学校保健会関係者が一堂に会し、当面する諸問題について連絡調整と研究協議を行い、学校保健の推進を図るとともに、近畿学校保健連絡協議会及び日本学校保健会の発展に寄与する。 | 尾 花 茂              |
| 第6回 四国学校保健研究大会<br>〔8月22日(木)~23日(金)〕     | 愛媛県 | 自ら進んで健康づくりに励む児童生徒の育成をめざして。                                                             |                    |
| 第36回 関東甲信越静学校保健大会<br>〔8月23日(金)~24日(土)〕  | 群馬県 | 生涯にわたって自ら健康づくりを実践する幼児、児童生徒の育成をめざして。                                                    | 関 口 龍 雄<br>小 野 三 嗣 |
| 第34回 北海道学校保健研究大会<br>〔9月21日(土)〕          | 江別市 | たくましいからだと豊かな心をもつ、生き生きとした子どもの育成を目指して。                                                   |                    |
| 第33回 北陸3県学校保健研究協議大会<br>〔11月1日(金)~2日(土)〕 | 福井県 | 自らの健康づくりをめざし、次代に生きぬく児童生徒の育成。                                                           | 村 上 賢 三<br>下 田 巧   |
| 第6回 東海ブロック学校保健連絡協議会<br>〔11月19日(火)〕      | 愛知県 | 活力ある児童・生徒の育成をめざして。                                                                     |                    |
| 第35回 全国学校保健研究大会<br>〔11月8日(金)~9日(土)〕     | 長崎県 | 健康で活力に満ちた心豊かな子供の育成を目指して。<br>-学校・家庭・地域の連携-                                              | 東 俊 郎<br>ほか        |

- ・第32回 全国学校薬剤師講習会 5月30日(木)・31日(金) 山口県
- ・第49回 全国学校歯科保健研究大会 10月25日(金)・26日(土) 奈良県
- ・第28回 全国学校保健主事研修会 11月21日(木)・22日(金) 徳島県
- ・第8回 全国学校医研修会 61年2月2日(日) 東京都

〔その他の会〕

全国養護教諭研究大会 8月27日(火)・28日(水) 新潟県

養護教諭実技講習会 7月~9月 宮城県、東京都、三重県、大阪府、岡山県、沖縄県で行われた。

# 育ちざかりのひと粒!

体力をつけ健康を保つ

## カワイ肝油ドロップ



製造発売元 **河合製薬株式会社** 東京都中野区新井2-51-8

### こどもの目、もっと大切に…

①FAD(補酵素型V・B<sub>2</sub>)配合 **こども目薬**



## ジュニアサンテ

**参天製薬株式会社**  
大阪市東淀川区下新庄3-9-19



学校保健の総合月刊誌

## 健康教室

定価600円 増刊650円

●イラストを使う指導資料等

心肺蘇生法の手引 日本蘇生学会編

統計図表サンプル集 健康教室編

カットイラストブック(1)~(3) 低学年向

(4)~(6) 高学年・中学向

●一般向け指導書

60年版学校保健の動向 日本学校保健会編

保健指導に必要な知識100題 日本学校保健会編

ぎもん・しつもん目の事典・構造屈折異常編 奥沢康正著

・ケガ、疾患編 奥沢康正著

学校保健の豆知識 東京都学校保健会編

子どものかかりやすい病気 東京都学校保健会編

子どもの精神健康と相談活動 広島大 品川浩三著

●生活習慣 紙芝居兼絵本(トマトくんシリーズ)低学年向

No.1. 排便習慣 (11月刊行)

学校保健専門出版 **東山書房** 京都(075)841-9278 東京(03)553-8358

清潔で安全な学校清掃管理は

**教室・廊下(木床)に**

**体育館(木床)に**

**ペンギン**  
**SCシステムで!**



SC  
フロアキーピング

- 塗るだけでピカピカ。
- 滑らないので安全。
- 水性タイプで清潔。



SCジム  
コンディショナー

- ウレタンコートされた木床の手入れに。(ダストコントロール)

**ペンギンワックス株式会社**

大阪市東成区東中本3-10-14 TEL.06 (976)1451  
札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・高松・福岡

(推薦:日本学校保健会)

※型録ご希望の方は、SCS係宛お申し込みください。

## “ふだんの予防で、元気な毎日”まず手洗い!!

殺菌消毒用 **シャボネット石鹸液**

日本学校保健会推せん No.632

精製ヤシ油を原料にした殺菌、消毒用石鹸液で、手洗いのあといや～な臭い  
が残りませんので喜んでお使いいただけます。シャボネット容器に入れ、水で  
7～10倍にうすめてお使いください。

サラヤ株式会社 TEL(06)797-2525

東京サラヤ株式会社 TEL(03)458-1515